

皇學館

学園報 第60号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL:0596-22-6496・8600

●大 学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL:0596-22-0201(代表) FAX:0596-27-1704

●高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL:0596-22-0205(代表)
[中学] 〒516-8588 TEL:0596-23-1398(代表)

平成二十八年 学長年頭講話

和の精神をもつて世界で活躍を

一月七日、清水潔学長による新年恒例の年頭講話が行われた。新成人となる二年生をはじめ学生・教職員が記念講堂に集まり、真剣な表情で学長の言葉に耳を傾けた。

日本人としての正しい生き方を示す「土規七則」

毎年、先人の教えや言葉を用いて語られることが多い年頭講話。本年は、吉田松陰(一八三〇〜一八五九)が従弟である玉木彦介の元服を祝い、贈った言葉「土規七則」を紹介した。

まず、この規範は日本人としての正しい生き方を凝縮して指し示したものであると言及した清水学長。最初に最も重要とする一節「人に五倫あり。而して君臣・父子を最大となす」という部分について詳しく解説した。

五倫とは、儒教で説かれる五つの徳目のこと。「君臣の義」「父子の親」「夫婦の別」「長幼の序」「朋友の信」を指し、それぞれの人間関係で何が大切かを説いている。松陰は、

中でも「君臣の義」「父子の親」が最も肝要で、人が人たる所以は忠と孝が根本にあることと伝えた。

皇国を理解してこそ日本の本質を理解できる

続いて、君子とは天皇

のことであり、日本は皇国(天皇を中心とした国家)であることに触れた。「皇国に生まれて皇国の皇国たる所以を知らず、急ぎ帰って六国史を読む」と松陰が手紙に記した逸話から、松陰自身も若い頃は皇国について理解が浅かったが、水戸学の教えを受け、その重要性をすぐに認識したエピソードを紹介。日本の国の本質をつかむには、皇国への理解を深めることが大事だと語った。



日本人としてあるべき姿、心構えを説く清水学長

そして七つの規範について順に解説。道義(正しい道)は勇氣によって実践されるものであり、勇氣は本心に正しいという確信がなければ湧かないものであること、公明正大についての一文からは、正直であることの大切さを説いた。さらに「徳を成し材を達する師恩・友益、多きに居る」との一節からは、真に社会に役立つ人物になるためには、よき師・よき友との出会いが重要であり、厳しく切磋琢磨できる友人

を選び、自らも相手にとってそうあるべきだと論じた。最後に、近年の人間観にあるありのままの姿に価値を見出す風潮を危惧し、人間の存在を突き詰める大自然や神々があり、神や宗教から自由であることが人間の尊厳だというのは傲慢であると指摘。日本人としてのアイデンティティを皇學館で学び、日本のみならず世界で活躍する存在に

なつてほしいと期待を込めて締めくくった。

参加した国文学科三年生の工藤超君は「社会の中で生きるための考え方の指針となるお話をいただいた。日本をよく学び、世界の情勢を知り、今後の日本をどうしていくか考えていきたい」と語った。神道学科二年の三村菜緒さんは「これから成人となつて、経験を積む中で理解していきたい」と語った。

学内成人式を挙行

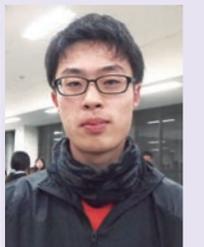
年頭講話に続き、十七時から倉院会館二階の食堂において学内成人式が行われた。対象となったのは、平成七年四月二日から同八年四月一日に生まれた学生六九五名(男子四〇一名、女子一九四名)。会場にはスーツ姿の学生約百名が集まった。冒頭、挨拶をされた清水潔学長は「このように学内で成人式を行うのは珍しい例。人生の大切な節目をともに祝えることを嬉しく思う」と喜びを語った。また昨年、アメリカ・ワシントンを訪れた際に視察したアナポリス海軍兵学校のエピソードを例に出しながら、一流エリートが揃う士官学校で最も大切にしているのは情操豊かな人間性を養うための「徳育」であることを伝え、新成人の学生にも学校生活を通して人間性を高めてほしいと激励した。



堂々と挨拶を述べた安部君



角谷さん



松月君

式では新成人を代表して神道学科二年の安部晃平君が謝辞を述べ、「これからは社会の一翼を担う立場になった。より良い社会を担う構成員の一員として、次世代のために社会に貢献できるように努力していきたい」と決意を新たにしていた。参加した国史学科二年の松月悠君は「新成人として自分の行動に責任をもつて過ごしていきたい。将来は日本史の教師をめざしている。日本の歴史を知らない子どもたちが増えているので、しっかりと伝えていきたい」と語った。教育学科二年の角谷実咲歩さんは「将来は体育教師になるのが目標。体を動かす楽しさを教えられたら」と語った。

鳥羽市と包括連携協定を締結

地域の活性化と人材の育成に寄与することを目的に、本学と鳥羽市は包括連携協定を締結。その調印式が一月二十七日、鳥羽市役所市長室で執り行われた。本協定は文化・教育・学術の分野等で相互に機能向上することを狙いとし、以下の項目を連携・協力事項として取り決めている。

- ①地域の歴史や文化の振興に
- ②地域の活性化に関すること。
- ③教育の充実に関すること。
- ④福祉の推進に関すること。
- ⑤その他、前条の目的を達成するために必要と認められること。

具体的には、本学の学生が地域の伝統行事や市民講座、観光産業、行政に参画、参加し学びを深める。一方、鳥羽市側は最重要課題とする移住定住事業に関し、大学のアイディアを活用したいとしている。「大学の持つ知的人的資源を市の発展に活かしたいと考えており、協定の締結を機に、連携を一層密にしたい」と今後の展望を語る清水潔学長。なお、協定は当面三年間とし、その後は毎年更新する予定だ。

倉田山 春秋

平成二十八年の年頭は各地とも暖冬となり、雪国でも雪のない正月を迎えたということが話題となった。例えば、冬季団体が目前に迫っていた岩手県では年が明けても雪不足のため「二月二〇日開幕の地元スキー団体を控え、練習環境が整わず選手は四苦八苦」(岩手日報、一月四日)という状況だった。一方、一月中旬からの猛烈な寒波は雪不足の解消を見たものの九州地方に大きな影響を与えた。長崎市では「積雪が一〇〇六年の観測開始以来、最多の一七センチを記録」(長崎新聞、一月二十五日)と報じられ、水道管破裂による断水や空港の閉鎖など生活にも支障が生じた。気象庁は「ある場所(地域)ある時期週、月、季節において三〇年に一回以下で発生する現象」を異常気象と定義しており、九州の雪は異常気象にあたるだろう。さて、伊勢と雪。全国的には「春一番」という風が吹いて春の到来を告げるけれど、伊勢では雪が春の訪れを感じさせてくれる。西高東低の気圧配置が緩み、乾季から雨季への移行のタイミングで一回だけ湿った雪が降る。これを「伊勢の春雪」と呼ぶ。伊勢の春は目の前である。

注目記事

2面 CLL活動レポート プロセスそのものが“学び”に

3面 (三重県)高等教育機関魅力向上支援補助金に採択

4面 就職内定者VOICE

5面 皇學館高校・皇學館中学校 卒業生随想

6面 留学生が学校生活を満喫 新校友会役員が抱負 ほか

7面 第55期 学友会総務部が発足

8面 日英比較文化研究会主催の講演会を開催

連載

2面 皇學館人物列伝⑦ 尾崎八東

3面 リーエッセイ 深草正博(教育学部教授)

皇學館大学・鳥羽市 包括連携協定調印式



協定書を手にする清水潔学長(左)と木田久主一鳥羽市長

CLL活動レポート プロセスそのものが学びに

COC事業(地)の拠点整備事業の一環として、本学学生が圏域の課題に取り組みCLL(コミュニティ・ラーニング・ラボ)活動が活発化していることは前号(第五十九号)で伝えました。今回はその一つ、皇學館大学学生フューチャーセンター「皇學館みらい対話団」によるワークショップの様態を報告する。

対話から生まれる多彩なアイデア

一月二十九日、午後六時半過ぎ。降りしきる雨の中、蔵のまち・伊勢市中、河崎の一角にある憩い処「和」には二十名ほどの若男女が集っていた。CLL・皇學館大学学生フューチャーセンター「皇學館みらい対話団」(以下、みらい対話団)によるワークショップの参加者たちだ。みらい対話団は地域の課題を題材に多様な人たちが未来について対話する場を



対話の内容をコンパクトにまとめて発表

創るべく、池山敦教育開発センター助教を指導教員に学生七名で活動している。この日の議題は伊勢市駅前空きビルのリノベーション(再生)について。ファシリテーターを務めるのはみらい対話団に所属する教育学科四年の武村志緒里さんだ。ワークショップは三つのグループに分かれ進行。冒頭、武村さんはいきなり本題に入らず、まずは初対面である参加者たちの緊張をほぐそうと自分のお気に入りの店や商品を紹介する時間を設けた。リラックスしたムードが広がったところ



教員への道が決まっている武村さん

本日の議題をみらい対話団に提案した伊勢まちづくり株式会社江崎明裕さん、尾西学さんは「我はどうしても事業化を視野に発想するので似たり寄ったりの案になってしまふ。今日は思っていた以上に多彩で面白いアイデアが出て、参考になった」と感心しきり。NPO法人「伊勢河崎まちづくり衆」の副理事を務

で、議題であるビルの活用策について話し合う場に。武村さんはまず、ビルのネガティブな点を挙げるよう促すと、次に、その短所をポジティブに言い換えてくださいと指示。参加者たちは一様に頭をひねりながらも面白い意見を出し合い、(賑わいがいい)↓(静かで落ち着く)↓(入りづらそう)↓(神秘的)など、プラス思考の発想でビルに新たな価値を見出していた。

フオロワーシップを磨き、地域貢献できる機会

池山先生はみらい対話団の活動を通して、学生に学んでほしいことがあるという。一つは個々のコミュニケーション能力に依存しない対話のあり方。近年、採用選考時に重視する要素として、「コミュニケーション能力」を第一位に掲げる企業は多い。しかし、池山先生は疑問を呈す。「人見知りする性格かもしれないし、立場や持つ情報量の違いから気後れして発言



対話を見守る池山先生(中央奥)

できないのかもしれない。もし、今日のワークショップのように意見を言いやすい仕掛けがあれば、対話の場はもっと充実するはず。学生がファシリテーターとしての腕を磨けば、必ず組織運営に貢献できる人材になれる」と話す。また、入学者の七割が県内出身であり、卒業生の六割が県内に就職することを考える「地域のひとたちと協働でプロジェクトに取り組む

むことは地元について認識を深め、地域に貢献できる絶好の機会」とその重要性を語る。今回、ワークショップを成功に導いた武村さんは「参加者がオープンに話せる雰囲気づくりやメリハリのある時間配分など、実際にファシリテーターをしたことでいろいろ勉強になった。春から教壇に立つが、ぜひ授業に活かしたい」と達成感に満ちた顔で話した。

学生が出前講座で作文指導



食い入るように画面を見つめる子どもたち

本学が伊勢市と締結した連携協定に基づき、平成二十六年に初めて実施した理科の出前講座。本物の昆虫を使った解剖実験や解説がわかりやすいと好評だったのを受け、第二弾として小学四年生を対象に国語の出前講座が行われた。担当したのは国語教育学ゼミに所属する学生十五名だ。昨年七月十日に市立大湊小学校へ赴いた

のをはじめ、これまでに御蘭小学校、明野小学校で計五回の授業を実施している。いずれも「いもむし作文」を上手に書くために文の構造を知ろう」と題し授業を進めた学生たち。主語、述語、修飾語といった文の構成要素をいもむしの体のパーツにたとえ、文の成り立ちをわかりやすく指導した。子どもたちは学生が制作した電子黒板を使ったしゃべる紙芝居にも興味津々で、身を乗り出して画面をじっと見入る姿が多く見られた。参加した教育学科四年の岸真由さんは「何度も模擬授業をして講座に臨んだ。準備は大変だったが、子どもたちの反応が良かった。教育実習とは異なるいい経験ができた」と感想を話していた。

第3回 皇學館大学・三重大学合同シンポジウム

史跡公園「さいくう平安の杜」復元建物完成記念「桓武天皇と齋宮」

日時●平成28年3月20日(日) 13:00~15:30
場所●齋宮歴史博物館 講堂
三重県多気郡明和町竹川503

参加無料 事前申込み不要 定員先着110名

タイムスケジュール

13:00~ **開会挨拶** 清水 潔 皇學館大学学長

13:10~ **講演1**
「文献史学から見た齋宮-奈良から平安へ-」
荊木美行 皇學館大学研究開発推進センター副センター長・教授

13:50~ **講演2**
「考古学から見た齋宮-奈良から平安へ-」
小澤 毅 三重大学人文学部教授

14:40~ **シンポジウム「桓武天皇と齋宮」**
榎村寛之 齋宮歴史博物館学芸普及課課長
荊木美行 皇學館大学研究開発推進センター副センター長・教授
小澤 毅 三重大学人文学部教授

15:20~ **閉会挨拶** 駒田美弘 三重大学学長

15:30~ **史跡公園「さいくう平安の杜」復元建物の見学・案内**

主催●皇學館大学・三重大学
共催●三重県・齋宮歴史博物館

問合せ
皇學館大学企画部地域連携推進室 TEL.0596-22-8635
三重大学企画総務部総務チーム TEL.059-231-9005

皇學館 | 人物列伝 | 27

尾崎 八束 (おざき やつか)

明治5年神奈川県生。明治31年東京帝国大学国史学科卒業。明治31年から大正3年まで神宮皇學館教授。号は狐山人。1872~1920。



作家・尾崎一雄の父

尾崎家は代々、現在の神奈川県小田原市曾我谷津に住み、祖父・基広の代までは宗我神社の社家であった。尾崎八束は、皇典講究所、第二高等学校(仙台)を経て東京帝国大学を卒業し、すぐに神宮皇學館教授となった。妻タイとは帝大生の時に結婚。タイも沼津市の日枝神社の娘であった。

こうした私事についての詳しい事情がわかるのも八束が作家、尾崎一雄の父で、「雄が「父祖の地」「父の顔」などでその思い出を記しているからである。

八束は伊勢に赴任後、浦田町五十番屋敷に住んだ。娘セイが生まれる

と、妻子を一旦、小田原に帰すが、明治三十九年には「雄だけを呼び戻し、明倫小学校へ入学させた。このころ任んだのが岡本町にあった参宮館という旅館の離れである。ここは後に腹切り問答で有名な浜田国松の屋敷となっている。

当時、「皇學館の学生がいつも訪ねて来た。学生達は、私が居るため、必ず私向きの菓子折りを持って来るのだが、父はそれをいちいち調べて「たべていいもの」「たべていけないもの」に分け、「たべていけないもの」は旅館の人達にすぐやっつけてしまった」という。

その学生の一人が香取神宮の社家

であった額賀大直である。後年、「父祖の地」がNHKラジオで放送されると、額賀は一雄に手紙を出している。同時期の学生には皇學館大学の再興に尽力した熱田神宮の長谷外余男、山形県米沢の大乗寺良一ら社界を牽引する人物がいた。

大正三年、胃腸の弱かった八束は神宮皇學館教授を退官。小田原に住む。恒例としていた神宮参拝の際、スペイン風邪と呼ばれた感冒にかかり、大正九年、最期を悟った八束は一雄に「何でも、常識でよく判断するがいい」と言い残した。四十七歳であった。

(国文学科教授 齋藤 平)

博学連携シンポジウム 開催のお知らせ
大学の“学芸員養成”教育と博物館—文化の裾野を広げるために—

日時●平成28年2月29日(月) 13:30~15:30
 会場●三重大学メディアホール 総合研究棟II 1F
 定員100名(入場無料・先着順・事前申込不要)

地域と結びついた博物館や学芸員のあり方を長年にわたり探求してきた佐久間大輔氏の講演を踏まえ、大学や博物館関係者等それぞれの立場から新しい学芸員像、今後の学芸員養成教育について展望する。

◆基調講演(13:30~14:20)
 佐久間大輔氏(大阪市立自然史博物館学芸員)が社会と連携しながら展開する博物館の実践事例とそこで求められる学芸員像、その養成の意義を語ります。

◆パネルディスカッション(14:30~15:30)
 パネラー
 石原義剛氏(海の博物館館長・三重大学客員教授)
 岡野友彦氏(皇學館大学文学部教授・佐川記念神道博物館館長)
 中村千恵氏(三重県総合博物館学芸員)
 司会・コーディネーター 山田康彦氏(三重大学教育学部教授)

問合せ先
 ●三重大学博学連携推進室事務局(附属図書館内)
 TEL 059-231-9083 E-mail lib-kikaku@ab.mie-u.ac.jp
 ●皇學館大学地域連携推進室
 TEL 0596-22-8635 E-mail kikaku@kogakkan-u.ac.jp
 ●三重県総合博物館
 TEL 059-228-2283(代) E-mail MieMu@pref.mie.jp

県内就職を応援! 就活支援を強化

〈三重県〉高等教育機関魅力向上支援補助金に採択

若者の県内定着を視野に三重県が創設した「高等教育機関魅力向上支援補助金」に、本学が申請した「県内企業と学生とのマッチングコーディネーターによる学生就活支援強化事業」が採択(平成二十七年度的み)。一・二・三年生を対象にさまざまな取り組みが行われている。

卒業生の活躍エリアを 県内全域に拡大

本学は入学志願者及び入学者の七五%が県内出身者であり、卒業後の就職先も県内企業・産業が六一%と高水準で推移している。この度採択された「県内企業と学生とのマッチングコーディネーターによる学生就活支援強化事業」は現状、中南海勢を中心となっている本学卒業生の活躍エリアを



2月15日に行われたみえ出会いスイッチプログラムにおける「異業種パネルディスカッション&模擬面接会」の様子

事業効果を高める三施策

製造業等の産業集積地である北勢も含め、県内全域に拡大しようというのだ。また、そのために必要な学生支援や多様な

事業効果を上げるため、本学は次の三つに重点を置いた。

①就職マッチングコーディネーターの協力を得て北勢エリアの企業等への会社訪問を強化。学生の就職活動エリアを県内全域に展開する。

②三年生対象の行事を「みえ出会いスイッチプログラム」として充実。人文学系の学生が得意な分野の知識・スキルの向上をめざす。

③これら取組みの成果を踏まえ、既存学部においても県内のみならず全国的にも人材不足が指摘されている新たな学修分野「ビッグデータ時代に対応する人材の育成」の開設を推進し、県内高校生の「学びの選択肢の拡大」をめざす。

職業に対応するスキル養成に向け新たな学修分野・コースの設置を計画している。

①について、本事業の牽引役となる就職マッチングコーディネーターには県内の企業や産業の魅力を熟知した地元金融機関のOBを一名雇用し、すでに就活支援を開始している。コーディネーターのきめ細やかなサポートのもと、学部学生が県内企業や産業の現状と将来性を主体的に学び、希望を持って県内企業・産業を第一志望に就職活動できるよう、就職担当部署のバックアップ体制を強化・再構築する。

②の「みえ出会いスイッチプログラム」は、左表の通り昨年十二月十六日に開催された第一回を皮切りにすでに三回実施。二月二十六日には事務系を対象にした「学内1DAYインターンシップ」が、三月十五日には四日市市で本学が主催する合同企業説明会が開催される予定だ。

③は県内高校生にとって学びの選択肢が増えるよう、コミュニケーション学科では、情報・統計分野における基本的スキルを備えた人材を養成する分野を新たに導入する予定だ。

みえ出会いスイッチプログラム

第1回	県内企業との交流会、キャリアデザイン講座 平成27年12月16日(水)【終了】	2・3年生対象
第2回	異業種パネルディスカッション&模擬面接会 平成28年2月15日(月)【終了】	3年生対象
第3回(1)	学内1DAYインターンシップ(営業系) 平成28年2月19日(金)【終了】	3年生対象
第4回	地元(伊勢市)企業視察会 平成28年2月23日(火)	3年生対象
第3回(2)	学内1DAYインターンシップ(事務系) 2月26日(金) 9:00~16:00 ◆951会議室 要予約 定員50名 ①企業のインターンシップに参加できなかった学生に、疑似就業体験の機会を提供する。 ②とくに事務系の仕事について実践的な就業体験の機会を作る。	3年生対象
第5回	合同企業説明会 in 四日市 3月15日(火) 13:00~16:00 ◆じばさん三重(四日市市) 要予約 大学よりバスで送迎。本学発9:30予定 ①北勢地区企業との新しい出会いを創出する。 ②学外での実施により、学生の参加意識を向上させる。	3年生対象



メイヨー准教授

『遷宮浪漫』の英語版が完成!

「A JOURNEY THROUGH TIME AT JINGU」が完成した。作成は伊勢志摩サミットの開催を見据え、櫻井治男教授(神道学科)とメイヨー准教授(コミュニケーション学科)が中心となって進めてきたもの。英訳にあたりメイヨー准教授は「単なる日本語版の翻訳ではなく、斎宮など地域の祭りに関するコンテンツや読者のニーズを考え散策マップを新たに加えた」と話し、「日本の宗教、歴史、文化、文学にも触れているので、伊勢志摩をより深く理解できる内容になったのではないかと自負する。既刊の日本語版は伊勢市の観光協会など県内十一カ所販売されており、英語版も順次委託を依頼する予定だ。」

『遷宮浪漫』(英語・日本語版) A JOURNEY THROUGH TIME AT JINGU

A 5判・122頁(英語32頁/日本語90頁)、地図 700円(税抜) ※送料別
 【お問合せ先】皇學館サービス
 TEL 0596-22-8561 FAX 0596-22-8562 E-mail k-service@kogakkan.co.jp

リレーエッセイ 私の学生時代

「1週間に1冊」を目標に

教育学部教授 深草正博 東京教育大学大学院文学研究科 修士課程西洋史学専攻 修了



この三月で退任となるが、三十年間私が学生諸君に言い続けたモットーが「一週間に一冊の本を読もう」である。浪人をした十九才の春、その反省から大学へ入ったら悔いのない勉強をしようとするに誓った。後に親友となる友人がものすごく本を読んでいて、それが刺激となり、いつしか二千冊が目標になった。一週間に一冊のペースで年間五十冊であるから、単純計算で四十年。十九才から始めて五十九才までかかる。実際に二千冊に到達したのは、一昨年すなわち平成二十六年七月一日、六十三歳のときであった。

ところで、一冊とはどういうことか。簡潔に言えば最初から最後まで読んだ本のことである。が、これがなかなかややこしい。具体例を挙げれば、司馬遼太郎の『竜馬がゆく』(文藝春秋)は当初五巻本で出たが、文庫に入ったときは全八巻である。マルクスの『資本論』(大月書店)も五巻本で読んだが、岩波文庫では全九巻である。さらに、ページ数の問題もある。例えば、A・G・フランク『リオリエント』(藤原書店)の本文は五八九ページで、他方、岸本美緒『東アジアの「近世」』(山川)は七

十八ページ。どちらも一冊。結局、最初から最後まで読んだものを一冊と数えるよりほかない。論文はここに入らないし、和書も洋書も部分的に読んだものは一切入らない。

最後に、私自身に決定的影響をおよぼしたものは、①和辻哲郎『風土』(岩波)、②M・ヴェーバー『古代社会経済史』(東洋経済)、③A・ブルーム『アメリカン・マインドの終焉(みすず)』の三冊である。もう一つ④大塚久雄『近代欧州経済史序説』があるが、これは著作集第二巻に別の一冊とともに入っており、そちらは読んでいないので先原則から一冊に入れることはできない。①は十九才、②は二十三才、③は六十三才、④は二十一才に読んだもので、私の経験からも、若いときに読んだ本が大きな影響を与えるのではないだろうか(私の例からすれば、本当にすごい本に出会うのは④を入れても平均して五百冊に一冊程度か)。

この先どこまで行けるかわからないが、これからも変わらず「一週間に一冊」を目標に読んでいこうと思ってい

(この原稿を書いている平成二十八年一月三十日時点で二〇六五冊)。

就職内定者 VOICE

神道学科	福山友崇	神宮
国文学科	中村葵	日本郵便株式会社
国史学科	服部文	セコム株式会社
コミュニケーション学科	上野優太	百五銀行
教育学科	杉本晴香	小学校教員：三重県
現代日本社会学科	山根あさひ	公務員・三重県警

その他の内定者についても大学HP「内定者VOICE」でご紹介しています

積極的に就職活動を行い、見事内定・合格を決めた先輩たち。

内定獲得に向けて努力したことや就職サポートの活用法、就職活動に役立つアドバイスを紹介します。

内定先 神宮

明階総合課程の履修を通して 貴重な機会を得ることができた

神道学科 福山友崇

幼い頃から神職である父の姿を見て育ち、祭典の準備や境内の清掃等を行う中で、敬神の心が養われたと思います。

奉職活動にあたっては、神職養成部の方から履歴書をはじめとする書類の書き方や面接対策など、

必要なスキルを丁寧に指導していただきました。先輩方が残してくれた試験報告書も大変参考になりました。また、身だしなみや言葉遣いも普段から意識していました。

4年生で明階総合課程を履修できたことも奉職活動に大きく影響したと思います。明階総合課程を履修していることで本社本庁や有識者の方々のお話を拝聴する機会が多く、普段の大学の講義とは一味違う貴重な経験となりました。最高位であると同時に、指導的の神職でもある「明階」という階位をいただく責任の重さを感じました。

もともと地元三重県での奉職を希望しておりましたところ、神職養成部の方々からの助言もあり、神宮を志望しました。おかげで内定をいただくことができました。奉職後はお世話になったゼミの先生、奉職先のきっかけを作ってくださった神職養成部の皆様方、家族、友人に対して感謝の念を忘れずに日々精進していきたいと思えます。そして、より一層日々のご縁を大切にしていきたいと思えます。



内定先 日本郵便株式会社

積極的に動いて 自分の実力、得手不得手を知ろう

国文学科 中村葵

就職活動を振り返って思うのは、早めに動いたおかげで入念に準備できたのが良かったということ。3年生の頃から就職講座に参加して積極的に活動していましたが、面接やグループディスカッション、自己PRの方法など、自分ではわかっているつもりでも知らなかったり、実際にやってみようと思うようにできなかったことが多々ありました。そこで、就職担当を定期的に訪ね面接の練習や履歴書の書き方などさまざまな部分でサポートしていただきました。各種の対策講座では先生より良かった点、悪かった点を教えていただいたので、自分の改善点がよくわかりました。

また、こういうことをやっておいたら面接で話すネタになるのではと先生にアドバイスをいただいたり、事前に先輩の報告書に目を通し、どんな質問をされるのか確認していました。履歴書も面接で答えやすい質問をもらえるよう、考えながら書きました。

最初はわからないことばかりで不安だと思いますが、何年か後にこの仕事は大変だけど楽しいと言えるようになっていたらいいと思います。在学中にさまざまなことにチャレンジしてきた行動力を忘れずに、何事も自分から主体的に動ける社会人になりたいです。



内定先 セコム株式会社

信憑性のある情報のみ収集。 面接は等身大の自分で「会話」を

国史学科 服部文

営業職という避けられがちな職種にあえて挑戦し、お客様の願いや悩みに寄り添いたいと思い営業職を中心に就活をしました。そこで、特別就活講座で勧められたセコムを受け、業界トップのスケールの大きさと謙虚に前へ進み続ける社風に惹かれ、進路決定に至りました。特別就活講座で講師の先生と就職支援の方のお話が進路決定のきっかけとなり、感謝してもきれません。

就活を行う上では事前にできること、考えられることはすべてやるよう心がけました。ネットの口コミは一切見ず、信憑性のある情報のみ参考にして企業業界研究をしましたが、それは、国史学科で身に付いた姿勢だと思います。面接は企業の方も自分のことを知りたいと思っています。面接は企業の方も自分のことを知りたいと思っています。面接は企業の方も自分のことを知りたいと思っています。

自分がどこまでできるのかやってみないと挑戦者の気持ちでスタートした就活でしたが、内定がゴールではありません。この進路選択が良かったと思えるかどうかは、自分次第です。まずは営業として、一人でも多くのお客様に安心してセキュリティを任せいただける人材になるのが目標です。



内定先 百五銀行

国際銀行マンとして、 地元貢献しつつ世界に関わりたい

コミュニケーション学科 上野優太

2年生の春にイギリスの大学に短期で行ったことがきっかけで、将来外国とつながる仕事をしたいと思うようになりました。また、地元である三重に貢献しつつ世界と関われる企業を探した結果、百五銀行を志望しました。

就活中、とくに頑張ったのは語学力です。大学には中国人留学生が多いので、私は留学生に図書館でよく中国語を教えてもらい、実際に本番で披露しました。また、所属するコミュニケーション学科の「表現演習」はとても役に立ちました。この授業のおかげで文章の書き方が上手になり、面接にも落ち着いて臨めました。

そして、就職担当の先生方の細やかな指導があったからこそ、本命から内定をいただけたと思います。たとえば、エントリーシートはいつも添削していただきました。また、それぞれの企業の特徴やどのような質問が過去に出題されたかも教えてくださったので、就活を有利に進めることができました。

今後海外進出する企業が増えてくるので、ゆくゆくは国際営業部でそのような企業の海外進出をサポートできればと考えています。



内定先 小学校教員：三重県

教育実習を経て教員をめざそうと決心。 子どもたちとともに成長していきたい

教育学科 杉本晴香

教育実習で出会った子どもたちから「先生になって」と言ってもらえたことや、先生方から「ぜひ一緒に働きたい」と言っていたことで、教員をめざそうと決めました。また、現役で先生をしている先輩の話や先生という仕事の楽しさが伝わってきたことも理由の一つです。

志望が固まったことで、採用試験を受ける人向けの講演には必ず出席するようにしました。また、3年生の時は論作文の添削や面接の練習を、4年生の時は集団討論や個人面接の対策を就職支援室の先生にいただきました。毎回先生からアドバイスやその年の傾向を教えてくださいましたのでとても参考になりました。学科では授業を作っていくことの難しさや楽しさを学ぶことができる「模擬授業」の講義がとくに役に立ちました。

春からは教壇に立ちます。実習先で出会った先生方のようにいつも明るく楽しく、時に厳しく子どもたちに接し、彼らに対して今自分にできることは何なのかを考え続けながら少しずつ自分も成長していきたいと思えます。



内定先 公務員・三重県警

小さな目標を決め、確実に達成。 その積み重ねが大きな自信になる

現代日本社会学科 山根あさひ

持ち前の明るさや体力を活かして警察官になりたい。そんな漠然とした思いが本気になったのは、福祉の授業で児童虐待について学んだことがきっかけです。少年の非行防止や健全育成に取り組む三重県警のボランティア活動に参加したことでより具体的に考えるようになりました。

志望先が決まると早く準備に取り掛かれます。2年生の頃から就職支援室に通って試験情報を徹底的に調べたり、先輩に話を聞かせてもらったり、警察署の方に面接練習をしていただいたりしました。大原の公務員試験対策講座では公務員の教養試験で重要な「数的処理」をわかりやすく教えてもらい、とても助かりました。もちろん、復習を欠かさず、また、定期的に模試を受験して自分の実力レベルをチェック。試験までに自分が今何をすべきかを確認し、〇〇問解く、1日に2キロ走るなど小さな目標を設定し記録をとり達成してきました。その積み重ねが大きな自信につながったと思います。

私の目標は警察官という職務を通して周りの人に笑顔と勇気を与えられる人になること。なりたい自分に向かって、これからも感謝を忘れずまっすぐ進んでいきます。



皇學館高校・皇學館中学校 卒業生随想

出会いあれば、別れあり。皇學館高校は354名、皇學館中学は46名が卒業を迎える予定だ。彼らの胸に去来する思いを語ってもらった。

皇學館中学校

春の訪れ

3年A組 松田 ひな子



3年前の4月、桜が舞い、春の訪れが私の期待を膨らませました。まだ見慣れない、すぐ迷ってしまいそうな校舎。その校舎は今では懐かしさを感じさせるとともに、たくさんの思い出を呼び起こします。本当にさまざまなことがありました。少し苦い思い出さえも「成長のきっかけ」と笑えるのは、時間のせいでしょうか。それとも私が成長したり、卒業に対する感慨深さゆえにそう感じるのでしょうか。

私は3年間、校友会本部役員として過ごしました。3年目には総務委員長という大役を任せいただき、たくさんの応援や協力のおかげで役割を全うすることができました。頼りない先輩と思った後輩もいたかもしれませんが、みんなが温かく支えてくれました。

また校舎に新しい春が訪れます。私もさらに新たな成長の一步を進めたいと思います。

これからも「絆」を大切に

3年A組 中西 孝太



これまでの中学校生活を思い返すと、さまざまな学校行事が思い浮かべられます。

1年生のときから懸命に取り組んだ体育大会に皇中祭。とくに陸上部員でもある自分はクラスの友だちと団結して全力を發揮しました。3年生として最後の皇中祭が終わり、少し団結心が薄れかけていた頃、修学旅行を迎えました。ともするとバラバラな自分たちでしたが、先生方から注意を受けながらも、てきぱきと行動することができました。「注意しあう」「3分間行動」「挨拶をする」の「中三愛」というルールを実践することができたのは、これまでの財産のおかげです。

この3年間、大切にしてきた「絆」をより深め、これまで私たちにさまざまなことを学ばせてくださった先生方、両親、家族の期待に応えることができるよう、これからも精一杯努力し続けていきたいと思っています。



「彼は人なり、我も人なり」

3年A組担任 平賀 活行

平成28年3月19日、君たち3年生は中学校を巣立っていきます。

3年前、真新しい大きめの制服に身を包み、入学してきたことを鮮明に覚えています。まだあどけなく、幼さの残る君たちは緊張の面持ちで入学式、そして初めての学級指導に臨んでいましたね。あれからあっという間の3年間でした。その間に、さまざまな経験を経て、たくましく成長していく様を身近で見ることができたことを本当に嬉しく思います。

私が中学の卒業式で当時の担任の先生からもらった言葉を贈りたいと思います。

「彼は人なり、我も人なり」

彼も自分も同じ人間。だから、彼(他人)にできることは自分にもできるという意味です。この言葉を信じ、この先にある大きな目標に向かって精一杯頑張っていくてください。そして、皇中での仲間をいつまでも大切にしてください。

皇學館高校

友

3年10組 中川 初保



卒業を目前にし、過去の自分を現在の自分と比較してみました。すると、自分自身が大きく成長したことを実感しました。入学以来6年間、私が人として成長することができたのは友人のおかげだと思います。たくさんぶつかり合ってきましたが、その度に話し合い、互いに理解し合いながら乗り越えてきました。その過程において、生きていく上で大切なことを一つずつ学びました。

友人と離れてしまうのは辛く悲しいことですが、別々の道を歩みながらも前に進もうとする点においては同じなのです。これからの人生で辛く苦しく感じるがあったとしても、ふと横を見れば皆もどこかで自分の目標に向かって努力しているのだと確信できます。そして、このことが私に強さを与えてくれます。この築き上げてきた目には見えない強さが、私を支えてくれるのです。卒業してもこの絆によって、それぞれの未来を、きっと光あふれるものにできるでしょう。

絆を糧に

3年9組 荒木 美来



不安がないと言えば嘘になります。しかしその思いは皆も変わらないはずです。今、皇學館高校で出会えた仲間たちと共に未知なる世界へ飛び立つときが来たのです。勉強のことや生活面でしばしば注意された私たち。日々指導して下さった先生方のことを思うと申し訳ない気持ちです。しかしそのような私たちですが、ただいらずらに時間を過ごしてきたわけではありません。私たち3年生は一人ひとりが圧倒的な情熱とパワーを秘めていて、行事でその力を發揮できたと思います。たとえば体育大会。綱引きでは3年間負け知らず。応援合戦も気合い十分。そして2年、3年と表彰台独占。「やるときはやる」という姿勢の中で絆を深めてきました。このメンバーと共に卒業を迎えられることを本当に誇りに思います。そして、日々の生活や進路相談でお世話になった先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。この先どのような困難があっても皇學館で築いた絆を糧に乗り越えていきます。

卒業おめでとう。 感謝の気持ちを忘れずに

高校第3学年主任 村崎 孝



「さあ、行っておいで。頑張れ。みんな」我々3年担任団の胸の内は今、成長した君たちを送り出す晴れがましい想いと、充足感でいっぱいになっています。

私は君たちによく、先輩から受け継ぐ「バトン」の話をしました。在学中の振る舞いや取組みの姿勢を見ると、そのバトンは立派に後輩に渡されると確信しています。君たちは、保護者の方や学校中の先生方に見守られながら、この皇學館で1年毎に充実感を増していきました。「まだ力を出し切っていない」と心残りがある人もいるかもしれませんが、皇高生活を終える今、一度自分自身を認めてやってほしいと思います。

時は留まるどころを知らず、君たちは「第51期卒業生」となります。そこで忘れてほしくないのが、今君たちがあるのは、身の周りの人たちはもちろんのこと、この倉田山で学んだたくさんの先輩の存在があるからだということ。つまり、同じ建学の精神に基づき学び、社会で活躍する先輩方が、陰日向となり支えてくれたのだということです。次は君たちがその仲間入りをするようになります。私は君たちに、卒業生としてたゆまなく母校に誇りを持ち、心を寄せて過ごしてほしいと思っています。

「感謝! 感謝! 感謝! 感謝することは人生を豊かにし、人を成長させる」。これも、折に触れ君たちに伝えてきた事柄。我々はいつも、「ありがとう」の気持ちで、君たちがたくさんの幸せを手にするのを、この倉田山から祈っています。

皇高NEWS

留学生・ニクラス君、高校生活を満喫中!

昨年八月から皇學館高校に通っているスウェーデン人留学生ノリンデル・ニクラス君が高校生活を謳歌している。

ニクラス君は伊勢ロタリークラブの留学生プログラムを利用して、スウェーデンの西海岸ハルムスタッド市からやって来た。伊勢の印象は「神秘的な町」。伊勢神宮が好き



で、五回以上参拝したという。現在、二年十組に在籍しているニクラス君。本校での生活について「休み時間も勉強するなどみんな真面目な印象。もつとカラオケやゲームセンター、映画館へ行って遊ばれたいだけだな」と笑顔で語る。日本の伝統的な文化に触れたいと書道部に入部。昨年の文化祭ではスウェーデンアーティストの曲をギターで演奏し盛り上げるなど、気さくな人柄ですぐにクラスになじんだ。意思疎通は日本語が中心だが、難しい言葉はALTの Erick 先生やクラスメ

イトが英語で補足するなど、互いに語学力やコミュニケーション力を磨く良い機会となっている。

「日本の音楽やファッションなどポップカルチャーに興味があり、ぜひ日本で生活したかった」と留学した理由を話すニクラス君は、自身も趣味で音楽を制作しており、最近では踏切警報機（カンカン）と鳴る音）や学校のチャイムなど、スウェーデンにはない音のサンプル集めに夢中だそう。国が違えば文化が違うのは当たり前。郷に入りては郷に従えの精神で過ごしているの、驚くことはあまりない」と日本の生活を語るニクラス君。将来はコンピュータエンジニアをめざしており、日本の大学に入っ勉強したいと目を輝かせる。

本校での生活を通して日本の文化、伝統に触れ、その魅力を世界へ発信できる人材となることを期待したい。

各会場に笑顔あふれる

武道・バドミントン大会&ダンス発表会

昨年十二月十八日に実施された武道・バドミントン大会、ダンス発表会は寒さとは裏腹に、熱気に満ちた大会となった。

二回目の開催。小林聖也君(二年八組)はダンスの一体感や会場の盛り上げ方など三年生

のパフォーマンスに圧倒されたと言いつ、二年生の自分たちも来年はあのような発表がで

バドミントンに参加した島田めぐさん(二年七組)は皆が日々の練習の成果を存分に発揮できたと話し、参加者全員が楽しんでプレーし、試合中も終始笑顔があふれていたと満足気に語った。

ダンス発表会は昨年に続き



拍手と歓声の中でダンスを発表



気迫にあふれた試合が続く

きたら」と感心したように話した。

武道大会の剣道では二年生が形を披露し、三年生は試合を行った。形を発表した村木彩里さん(二年四組)は「厳粛な雰囲気の中とても緊張したが、失敗せずに終えることができ安堵感と達成感でいっぱい。三年生の試合は精神的にも技術的にも素晴らしい。試合に臨む真剣な様子が印象に残った」と感想を話していた。

皇中NEWS

7名の新校友会役員が誕生

12月9日に立会演説会・選挙が行われ、7名の新校友会本部役員が誕生した。以下に彼らの抱負を掲げる。



意気込みを語る新役員たち

最高の和を作っていきたい

総務委員長 江藤 朋華(二一B)

私はこの学校をより楽しく充実した学校にしていける存在になれるように頑張ります。そしてこの七人のメンバーで最高の和を作っていきたいと思えます。

K・運動にも力を入れたい

総務副委員長 西井 梓(二一A)

皇學館中学校の代表として自覚を持ち、積極的に行動していきます。そして、K・運動にも力を入れ、笑顔満開になれるような学校にするために他のメンバーと協力し合い、頑張っていきたいと思います。

個々の力を高めたい

総務副委員長 宇城 幹土(二一B)

私は生徒一人ひとりが自分から積極的に行動できる学校にしたいです。集団の力を高め

るためには「個々」の力を高める必要があります。私はその力を高めていこうとする化学反応を起こすキッカケを作り、皆の手下になれるよう頑張ります。

自ら行動を

書記 坂本 一馬(二一A)

私が今年度も本部役員になったのは昨年度の経験や知識を活かしたいと思ったからです。また「当たり前」のことを当たり前にしよ「を自分の目標とし、きちんとすべきところから徹底し、周りに言う前に自分が行動に移して皆にアピールしていこうと思えます。

笑顔と活気あふれる学校に

書記 堀出 萌絵(二一B)

私は全校生徒の手下となってくれる先輩方に憧れ、本部役員になりました。役員になったからにはまず自分自身が前向きに常に笑顔絶やさず、活動していきたいです。メンバーと協力し、意見を出し合い、この学校をさ

らに笑顔があふれ活気のある学校にしていきたいです。

先輩を見習い明るく元気に

会計 白杵 小奈津(二一B)

私が本部役員になった理由は行事のたびに明るく積極的に活動している先輩方の姿に憧れたからです。私も先輩方のように皇學館中学校の代表として、常に明るく、元気にこの学校をさらに素晴らしいものにしていきたいと思えます。

後輩がいついできる学校に

会計 池田 伊織(二一B)

私は今回の選挙のスローガンに後輩がいついできる学校にしたいと書きました。そのためにも挨拶をしっかりし、K・運動などさまざまなことに積極的に取り組み、皇學館中学校を一層魅力あふれる学校にしたいです。

楽しい一言に尽きる三日間

沖繩修学旅行(平成二十七年十二月十三日~十五日)

三日という時が流れるのはとても早い。それが一番の感想だ。時間に遅れてしまったり何かとトラブルもあったけれど、きちんと反省して今後に活かせたいと思う。

この三日間を言葉で表すとしたら、「楽しい」の一言に尽きる。出発式の挨拶で語った通り、最高の思い出に残る修学旅行となった。初めての体験や初対面の方々との触れ合いの中で礼儀正しさを忘れ

素晴らしい時間を共に過ごした仲間と高校で再び一緒に学べることを、改めて嬉しく感じた旅でもあった。

三年B組 阿部 七子

大会を通してクラスがまとまった

バドミントン大会

十二月四日に開催されたバドミントン大会。当初、クラスの男子が「バドミントンなんか、でやん」と言っていたので心配していたが、練習の賜物かかなり上手く試合も頑張ってくれた。女子もベストを尽くしたので総合優勝できたのだと思う。ただ、リーグでは最後に負けてしまったのが悔しかった。でも、大

三年A組 山本 綺音

ハイレベルな戦いとなった百人一首大会

一月二十七日に新春恒例の百人一首大会が開催された。今回は六歌仙の名にちなんだ六チームに分かれ、クラス対抗での対戦となった。

団体戦は各コートに並べら

れた二十五首のうち、二十首を取り合う。出場生徒は二十秒の暗記タイムで集中力を高め、読み札を読み上げる先生の声にすばやく反応。まさに真剣勝負で、読み札一枚ごと

に応援席から歓声が響いた。夏休み前から全首暗唱に努めていた一年生の活躍ぶりも注目を集めた。

クラス代表生徒六名による個人戦も白熱した展開を見せ、ここ数年で最もハイレベルな大会となった。



見学地の美ら海水族館にて

二十名の学友会総務部員が誕生

第五十五期学友会総務部が発足

昨年十二月十六日、本学大会議室において第五十五期学友会総務部の任命式が執り行われ、今期は二十名が部員となった。以下に、総務委員長として会をまとめる工藤超君（国文学科三年）の抱負を掲げる。

伝統を守り陋習を廃す

この度有難く御信任に与り総務委員長となりました工藤超と申します。先般、立会演説会にて披露した公約は——「伝統を守り陋習を廃す——」の一言に纏められます。

国文学科三年 工藤 超

組織には年輪の如く概して陋習が堆積するものです。一方でまた、伝統も醸されてゆくものです。前者を廃し、後者を重んずることにより、組織は保守点検が正常になされ、個性的に輝きながら円滑に営まれてゆくはず。是を以て、神宮皇學館より受継ぐ伝統を至上の宝とした上で、是非々の改革を遂行します。例を挙げれば、護持的側面では月例神宮参拝や倉陵祭などの行事に係る意識の向上を促進し、そして改革的側面では先例を斟酌しつつも枷とせず、手続き等の電子化・効率化を筆頭に利便性の向上を図ります。大きな組織を僅かでも



使命感を持って取り組みたいと、表情を引き締める部員たち

動かすとなれば、一筋縄では行かぬことは着任以来既に何度も経験致しました。これからは容易き道ではないと存じます。しかし、今期の豊富にし

総務委員長	工藤 超	国文3年
総務副委員長	中村 勇貴	神道1年
会計委員長	池田 雅貴	神道2年
庶務委員	飯田 航	神道2年
	西 遼	神道2年
	豆多 真空	国文2年
	阿部 俊允	国史2年
	中原 悠斗	国史2年
	堀 達矢	国史2年
	秋山 聖愛	神道1年
	稲毛 陸人	神道1年
	重白 将汰	神道1年
	杉原 徳里	神道1年
	舟久保 瑠璃	神道1年
	守部 銀河	神道1年
	山 沖香佳	神道1年
	山 光宇宙	神道1年
	久保 遥加	国史1年
	飯田 雅菜	教育1年
	植谷 もえ	教育1年

「また参加したい」の声多く 皇學館大学ボランティアルーム主催「倉田山清掃」を実施



中高生と大学生との混成メンバーによる清掃活動

昨年十一月二十一日、皇學館大学ボランティアルームが主催した「倉田山清掃」において、皇學館中学校、皇學館高校、皇學館大学から総勢七十四名がボランティアとして清掃活動を行いました。中高生を交えて行う企画は今回が初めてでしたが、多くの参加者に恵まれました。本企画における第一目標は、ボランティアに参加するきっかけづくりです。一人でも多くの生徒・学生にボランティア活動の良さを体感してもらい、今後の参加意欲につながらねばならないと思われ、企画しました。当日は皇學館大学から宇治山田駅周辺のエリアを各グループに分かれて約一時間清掃し、多くのごみを回収することができました。また、中高生と大学生との混成メンバーにしたことにより、年齢に関係なく会話が弾み、和気あいあいの雰囲気となりました。活動後は、スタッフが用意した焼き芋を食べながら意見交換を行い、参加した中高生からは「またボランティアに参加したい」「良い経験になった」「大学生からボランティア活動が有意義なものであると改めて気づいた」「ボランティアは自分を成長させてくれる」といった感想が寄せられ、この企画を通して我々ボランティアルームのスタッフの思いを感じ取っていただいたことを嬉しく思います。

皇學館大学 ボランティアルーム 西村 友希 (現代日本社会学科 四年)

吹奏楽部が魅惑の演奏

イオンモール明和サウンドシャワー

イオンモール明和ハナショウアップ広場にて昨年十二月二十三日、「イオンモール明和サウンドシャワー」が開催され、皇學館高校吹奏楽部の選抜メンバー約二十名が小編成を組み出演した。昨年度に引き続きの参加となった同吹奏楽部は、「ジングルベル」「サンタが街にやってきた」「ホワイトクリスマス」などの定番ソングのほか、「学園天国」「銀河鉄道999」「いとしのエリー」といったポピュラーな曲をジャズ風にアレンジする魅惑の演奏を披露。平成二十五年度から県吹奏楽コンクールで三年連続優勝を果たしている実力をいかんなく発揮し、聴衆を引き込んでいた。



華麗な演奏で聴衆を魅了

初出演となった一年生の部員は「緊張したが、実際の反応を目の前で感じる事ができ、とても良い経験となった」と語り、指揮を務めた顧問の前川幸生先生は「日頃の練習の成果を発表する機会はとても大切。来年度もぜひ出演したい」と話した。なお、ハナショウアップ広場には「学校案内コーナー」が設けられ、演奏終了後にパンフレットを手に取る聴衆も見られた。今後もこのような機会があれば積極的に参加し、「皇學館中学校・高等学校」の活動をアピールしていきたい。

学生に市政への参加促す

市長トークinキャンパス

一月十四日、伊勢市の鈴木健一市長による講演「平成二十七年 市長トークinキャンパス」が行われ、約七百名の一年生が耳を傾けた。講演は「伊勢の紹介」「伊勢の将来」「私のまちづくり」の三部構成で進行。鈴木市長は選宮とともに発展してきた市の歴史をひも解きながら、人口減少や高齢化といった市が直面している課題に現況を説明した。また、第三部「私のまちづくり」では種々の防災対策や国

際観光都市へ向けた取組みについて紹介。その中で鈴木市長は「伊勢志摩定住自立圏構想」や「車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト」など本学と関わりの深い事業実績を挙げ、学生の柔軟な発想と行動力で伊勢と一緒に盛り上げてほしいと呼びかけた。教育学科一年の木村愛さんは「フリー観光に興味を持った」と語り、「学生の語学力を使っておもてなしができたら、観光客と学生、双方にとってプラスになるので」と感想を述べた。国史学科一年の蓮見拓君は「伊勢志摩サミット開催



木村さん



蓮見君

深草教授が税務署長表彰

多年にわたり租税教育の推進に努め、正しい知識の普及と若者の納税意識の高揚に貢献したとして、深草正博教育学部教授が伊勢税務署より表彰された。深草教授は六年前より二年生の秋学期の授業に伊勢税務署長を講師とし



表彰状を手に笑顔の深草教授

した。政府には、税金の使道を大切に考えてほしい」と話す。なお、表彰式は昨年十一月十三日に行われ、深草教授には表彰状と記念品が授与された。

人事異動

〔内は旧職〕
平成28年1月31日付
法人本部事務局企画部調査役 森 正樹 (皇學館サービス棟)
平成28年2月1日付
所属異動
法人本部事務局企画部係長 前田千鶴子 (学校事務部学校事務室係長)
出向
前田千鶴子 (皇學館サービス棟) 兼 営業課長補佐



伊勢志摩サミットの効果により、外国人観光客が増加していることなどが語られた

イベント情報(2~3月)

- 2月 29日** 博学連携シンポジウム 三重大学メディアホール
大学の「学芸員養成」教育と博物館
—文化の裾野を広げるために—
- 3月 5日** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
「黄檗宗寺院における神と仏」
河野 訓(文学部教授)
- 5日** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 大阪府の万葉集(2)
大島信生(文学部教授)
- 12日** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
『古事記』を読む(上巻)
「大年神の子孫—葦原の中つ国のことむけ」
白山芳太郎(文学部教授)
- 19日** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 原文で読む『日本書紀』神代巻
—天照大神と素戔嗚尊— 松本 丘(文学部教授)
- 20日** 第3回皇學館大学・三重大学合同シンポジウム 斎宮歴史博物館講堂
史跡公園「さいくう平安の杜」復元建物完成記念
「桓武天皇と斎宮」
- 26日** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
「国東半島における神仏習合と神仏分離」
河野 訓(文学部教授)

●各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。
●共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(☎0120-106-718)へお願いします。
●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)へお願いします。

皇學館中学校 卒業式

3月19日(土) 10:30~ 皇學館中学校セミナーホール

皇學館高校 卒業式

3月1日(火) 10:30~ 皇學館大学 記念講堂

皇學館大学 学位記・修了証書授与式

3月18日(金) 11:30~ 皇學館大学 記念講堂

祝賀会 14:00~15:30 総合体育館メインアリーナ
※卒業生のご家族の皆様もご参加いただけます。
ぜひお越しください。

皇學館大学教育学部 卒業記念ミュージカル

★予約不要 ★入場無料 ★入場は先着順

大好評の教育学部4年生有志によるミュージカルを今年も開催します! 学生たちが一から手掛けるオリジナルショー。お楽しみに!

ゆづきのヒーローたち ~3つの大切なこと~

津公演
三重県総合文化センター中ホール
2/19(金) 開場●17:30 開演●18:00
20(土) 開場●13:00 開演●13:30

伊勢公演
皇學館大学 記念講堂
2/27(土) 開場●14:00 開演●14:30
28(日) 開場●12:30 開演●13:00

お問い合わせ先
皇學館大学 教育学部研究室
TEL 0596-22-6458(直通) 0596-22-0201(代表)

東西文化・芸術の融合めざし 日英比較文化研究会主催の講演会を開催

コミュニケーション学科 児玉 玲子



上/ケイト・ロマーノ女史の講演
下/雅楽部による舞の披露



「東海道ロード」東西文化をつなぐ橋と題して、ガフィールド博士の詩集との出会いからオペラ制作までの挑戦を語った。二人

翌日は、伊勢市長を訪問し、ともに聖地である伊勢市とカンタベリー市の友好を深めた。日英の文化、芸術、地域、学問、そして人とのつながりも、融合と友好関係を続けていきたいものである。

皇學館大学とケント大学の学術交流の一環として行っている日英比較文化研究会(津田学術振興基金プロジェクト)主催の第三回講演会(第二回はケント大学にて開催)を、昨年十一月十八日、本学にて開催した。

三回目となる今回は、東西文化と芸術の融合をテーマに「英詩『東海道』とオペラ」と題して、英国から二人の女史をお招きして行った。

第一部では、ケント大学ナンシー・ガフィールド博士が「詩から舞台へ、東海道—広重の旅路を超えて」と題して講演した。女史は、広重の東海道五十三次の浮世絵に対応する旅をコンセプトに詩集『Tokaido Road』を出版され、いくつかの賞も受賞されている。平成二十五年に発表された際にはこの詩集についての講演であったが、今回は、それ

がオペラ化され、詩歌を演劇作品として紡ぎなおす新たな取り組みについて語られた。詩に登場するヒロを若き広重として描き、広重の人生を探求するストーリーとして再構築、オペラ舞台では浮世絵版画を大きく映し出す構想は、新たな文化の融合が感じられるものであった。

オペラ音楽の演奏は、西洋の楽器と日本の和楽器を織り交ぜ新しい音楽をめざすグループ、オペラアヌスによる。その創設者の一人でクラリネット奏者であり、オペラ『Tokaido Road』のプロジェクトリーダーが、もう一人の講演者ケイト・ロマーノ博士(ギルドホール音楽演劇学校講師)である。

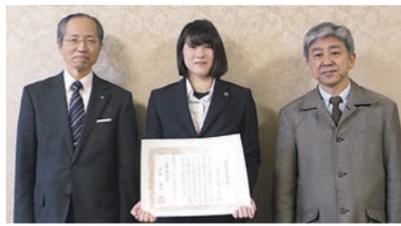
休憩時間には、本学の雅楽部による演奏と舞を披露した。オペラでも奏でられている笙をはじめ、日本の代表的な文化でありながら味わう機会の少ない音色、舞、そして衣装を、講演者の二人はもちろん、市民や学生聴講者も熱心に鑑賞した。

第二部では、ロマーノ博士が「東海道ロード」東西文化をつなぐ橋と題して、ガフィールド博士の詩集との出会いからオペラ制作までの挑戦を語った。二人

排球部・濱崎彩さん(教育三年)に学長奨励賞

排球部の濱崎彩さん(教育学科三年)が課外活動において顕著な成果を挙げたとして、学長奨励賞を受賞。その授与式が一月二十一日、学長室にて行われた。

濱崎さんは昨年十二月二十三日・二十四日に芦



賞状を手に喜びの表情を見せる濱崎さん

屋大学で開催された第十六回西日本大学バレーボール五連女子選抜対抗戦に東海学連選抜女子チームの選手として出場。本学から東海学連への選出は濱崎さんが初めてとなる。大会では五連(九州・中国・四国・関西・東海)のトップクラスの選手たちに混じり堂々とプレーした濱崎さん。高いスパイク能力が求められ攻撃面で重要なポジションとなるレフトとして貢献した。なお、チーム

は昨年からの順位を一つ上げ、三位の成績を収めた。授与式で清水潔学長は「試合での経験やトレーニングの成果を後輩にもしっかりと伝えて、排球部が東海地区で確固たる地位を築けるよう期待する」と激励。濱崎さんは「全日本チームのコーチ

を迎えての強化試合や今大会で得た技術、練習方法などを排球部での鍛錬に活かし、春に開催される東海大会で好成績を収めたい。そして、一部リーグで上位に食い込めるよう、チーム一丸となって頑張っていきたい」と意気込みを語った。

川上伊織君(三年)が心理学検定二級に合格



日本心理学諸連合学会認定の資格試験「心理学検定」一級にコミュニケーション学科二年の川上伊織君が初挑戦で見事合格した。受験者数三六六八名のうち、一級に認定されたのは六五三名(一七八%)。授業で学んだことがきちんと理解できているか、腕試しのつもりで受けた」と川上君。指導教員である芳賀康朗文学部教授(実験心理学・学習心理学)の講義を受ける中で、鏡に映った図

形の輪郭をなぞり学習効果を測定する実験など、エビデンス(証拠)に基づき心の不思議を解き明かす心理学への興味を深めていったという。授業を

土光杯全日本青年弁論大会で高里智佳さん(国史四年)に産経新聞社杯



言論界への登竜門とされ、将来を担う若者が弁論を競う「第三十二回土光杯全日本青年弁論大会」が一月九日、東京・サンケイプラザホールで開催され、国史学科四年の高里智佳さんが優秀者に贈られる「産経新聞社杯」を受賞した。

高里さんは「一人一人のクールジャパン」と題

し、出場者十五名のうち最後の発表者として登壇。スピーチでは常に袋を持ち歩き道に落ちてくるゴミを拾っていること、感謝の気持ちを込めて毎朝夕神棚に拝礼していることなど自身の習慣を例に「小さなことでも日本人一人ひとりが自分ができることを積み重ね、礼節や思いやりを重

んじる日本人らしさを守っていけば、わが国は世界の頂で輝く一國となれる」と熱く訴えた。

弁論後、複数の女性から「感動し、共感した」「胸がいつぱいになった」といった声をかけられ、予想外の反響に嬉しさと驚きを感じたと語る高里さん。そして、今回の結果に悔しいとは思っていないが満足もしていないと語り、さらなる飛躍への決意を固めていた。この度の活躍を受け、高里さんは学長奨励賞を受賞。なお、高里さんの発表要旨は一月二十六日付の産経新聞(全国版)に大きく掲載された。

編集後記

年頭講話において清水潔学長は「日本人としてのアイデンティティを本学で学び、日本のみならず世界で活躍する存在に」と学生に期待を寄せました。また、鈴木健一伊勢市長は講演の最後で読書の大切さを説くと同時に、学んだことを実践してほしいと訴えました。本号では多くの学生の活躍を取り上げましたが、彼らに共通するのは「実行している」点です。本学において培った日本人としてのあり方、価値観が真の意味で活きているのは、ふさわしい行動に移してこそ。まずは一歩踏み出す勇氣を。

企画部